

愛媛県の地震

2026年3月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図1
2. 地震概況1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震.....2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図.....2~3
5. 地震一口メモ
南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）について.....4~5

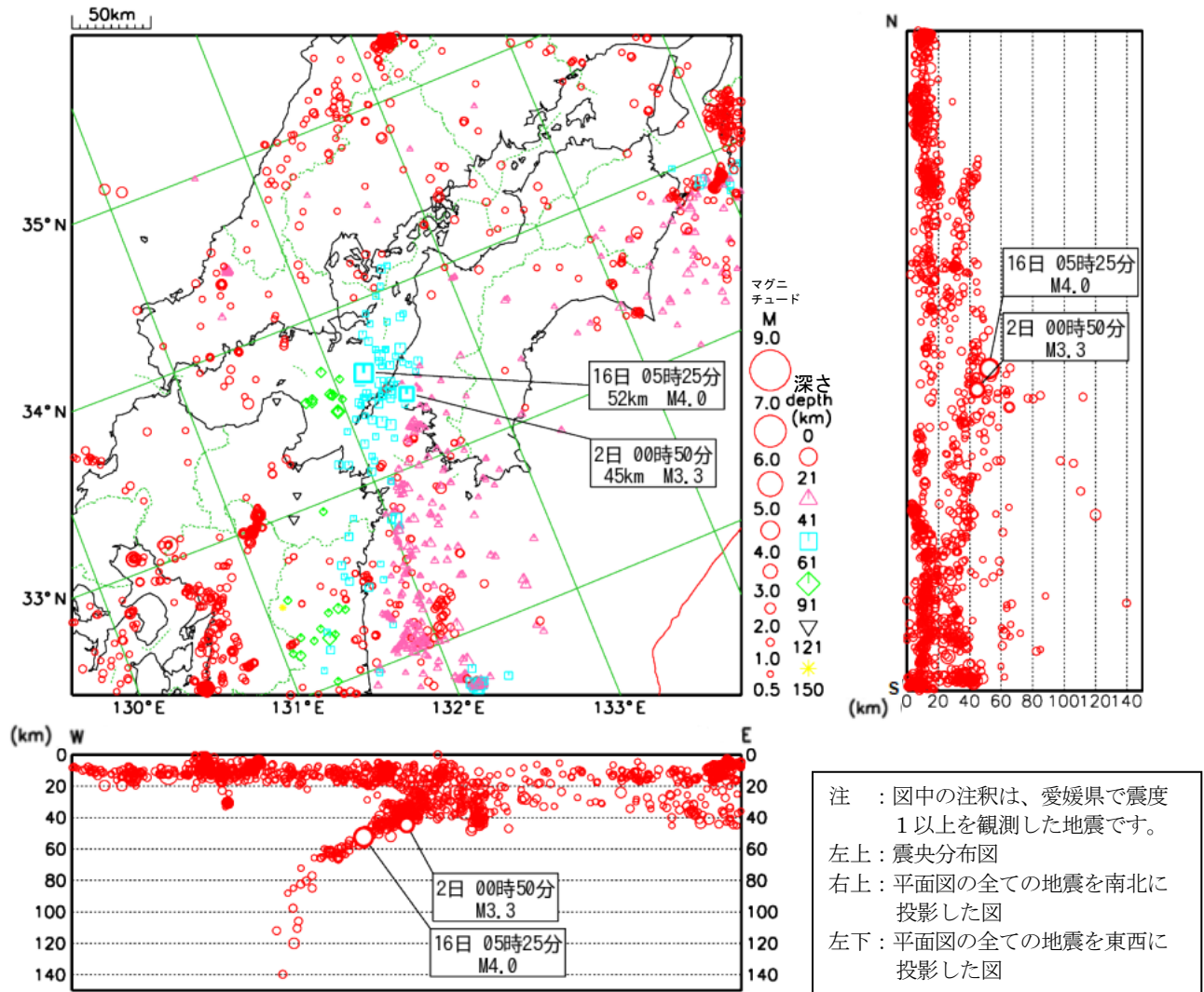
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2026年3月1日~3月31日]



注：図中の注釈は、愛媛県で震度1以上を観測した地震です。
 左上：震央分布図
 右上：平面図の全ての地震を南北に投影した図
 左下：平面図の全ての地震を東西に投影した図

震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況

2026年3月に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は150回（先月は78回）、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は3回（先月は3回）でした。

1日18時00分 薩摩半島西方沖の地震（震央分布図範囲外：深さ124km、M5.4）により、愛媛県八幡浜市で震度2を観測しました。そのほか、宮崎県、鹿児島県で震度3を観測し、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度2~1を観測しました。

2日00時50分 愛媛県南予の地震（深さ45km、M3.3）により、愛媛県宇和島市で震度2を観測したほか、愛媛県内で震度1を観測しました。

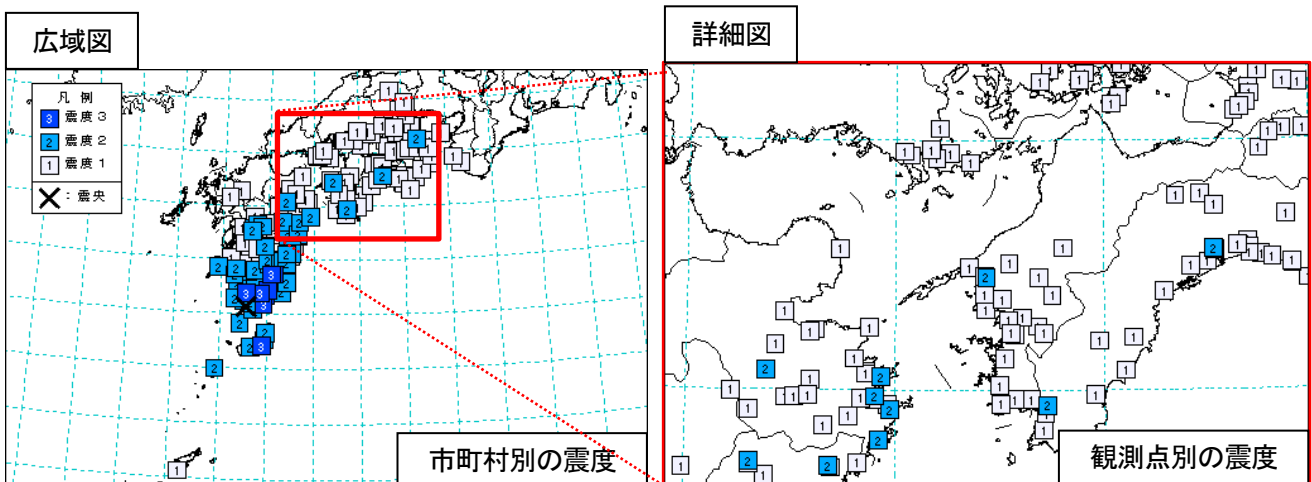
16日05時25分 伊予灘の地震（深さ52km、M4.0）により、愛媛県伊方町で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2~1を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震

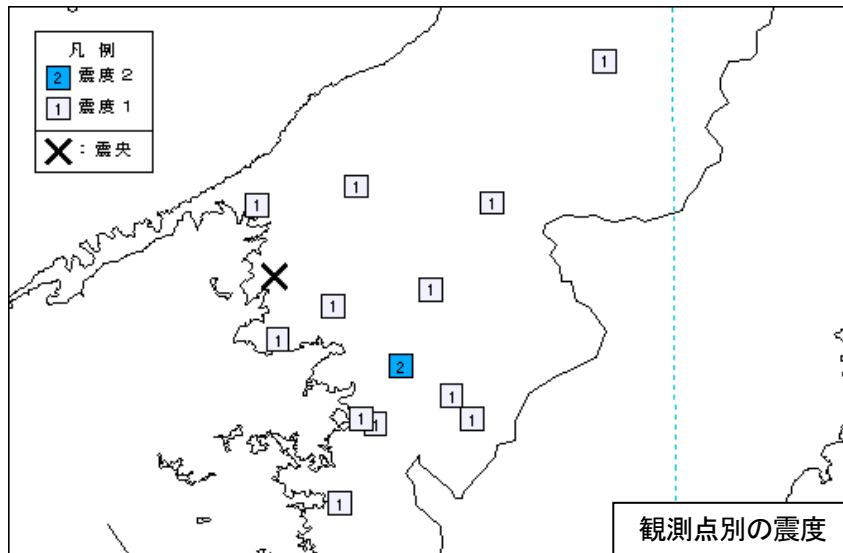
震源時 (日時分)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2026年03月01日18時00分	薩摩半島西方沖	31° 07.1' N	130° 33.7' E	124km	M5.4	2
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 2: 八幡浜市五反田*					
	震度 1: 今治市吉海町*,今治市宮窪町*,宇和島市住吉町,宇和島市丸穂*,宇和島市津島町*,宇和島市吉田町*,宇和島市三間町*,八幡浜市広瀬,大洲市肱川町*,大洲市大洲* 内子町小田*,伊方町湊浦*,松野町松丸*,西予市城川町*,西予市宇和町* 西予市三瓶町*,西予市明浜町*,愛南町船越*,愛南町柏*,愛南町御荘* 愛南町一本松*,愛南町城辺*,愛媛鬼北町近永*					
2026年03月02日00時50分	愛媛県南予	33° 23.8' N	132° 25.6' E	45km	M3.3	2
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 2: 宇和島市三間町*					
	震度 1: 久万高原町久万*,宇和島市住吉町,宇和島市丸穂*,宇和島市津島町* 八幡浜市保内町*,大洲市大洲*,大洲市河辺町*,松野町松丸*,西予市野村町* 西予市宇和町*,西予市明浜町*,愛媛鬼北町近永*					
2026年03月16日05時25分	伊予灘	33° 36.0' N	132° 12.5' E	52km	M4.0	3
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 3: 伊方町湊浦*					
	震度 2: 松山市中島大浦*,宇和島市三間町*,八幡浜市五反田*,八幡浜市保内町* 大洲市大洲*,内子町平岡*,伊方町三机*,西予市野村町,西予市明浜町*					
	震度 1: 今治市菊間町*,今治市吉海町*,西条市丹原町鞍瀬,松山市北持田町,松山市富久町* 松山市北条辻*,伊予市下吾川*,伊予市中山町*,砥部町総津*,砥部町宮内* 久万高原町久万*,宇和島市住吉町,宇和島市丸穂*,宇和島市津島町* 宇和島市吉田町*,八幡浜市広瀬,大洲市豊茂,大洲市肱川町*,大洲市長浜* 大洲市河辺町*,内子町小田*,伊方町三崎*,松野町松丸*,西予市城川町* 西予市宇和町*,西予市三瓶町*,愛南町柏*,愛媛鬼北町近永*					

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

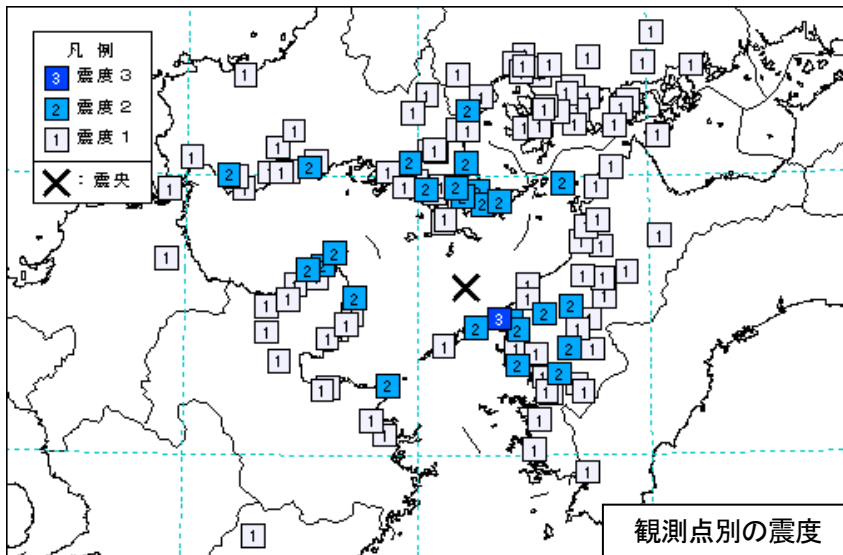
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図



3月1日18時00分 薩摩半島西方沖



3月2日00時50分 愛媛県南予



3月16日05時25分 伊予灘

5. 地震一口メモ

南海トラフ海底地震津波観測網 (N-net) について

○南海トラフ海底地震津波観測網 (N-net)

国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）は、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、南海トラフ地震の想定震源域のうち、それまで観測網が設置されていなかった西側（高知県沖から日向灘）の海底に、地震計と水圧計を備えた「南海トラフ海底地震津波観測網 (N-net※)」を整備しました。

N-net は令和 6 年に整備が完了した「沖合システム」と令和 7 年 6 月に整備が完了した「沿岸システム」の二つのサブシステムから構成されます。各サブシステムは、観測ノードと呼ばれる 18 個の観測点がケーブルで繋がれ、高知県室戸市及び宮崎県串間市の二つの陸上局で陸揚げされています。各観測ノードには地震計や津波計（水圧計）が搭載されており、リアルタイムに 24 時間連続で地震観測データと津波観測データを取得できるようになっています。

※N-net : Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis

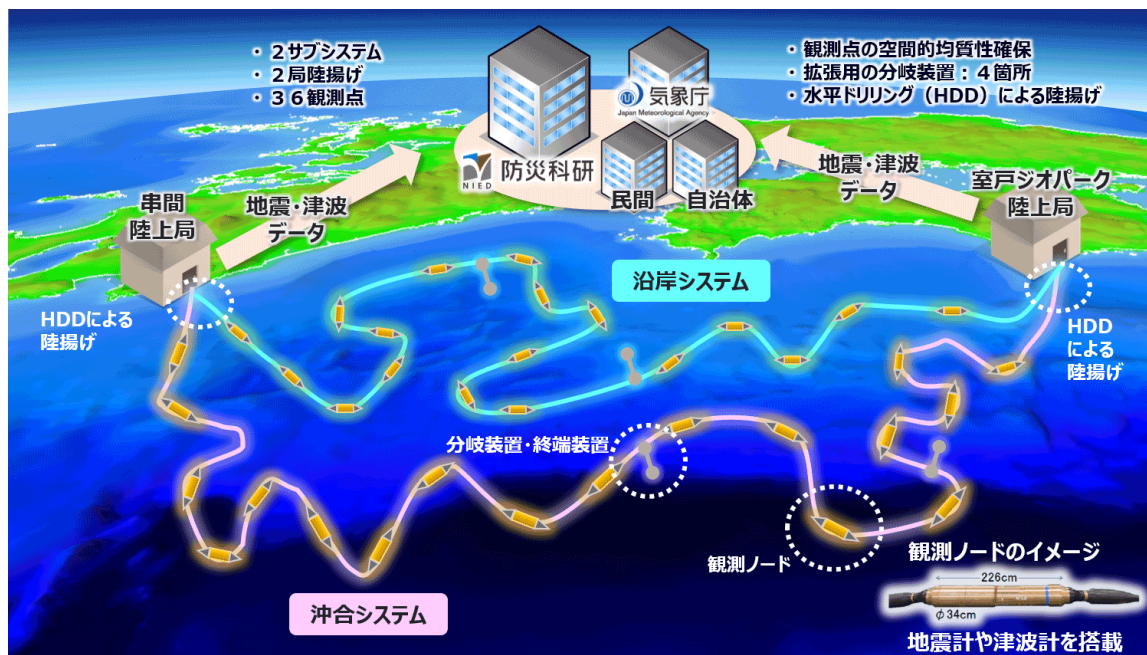


図1 南海トラフ海底地震津波観測網 (N-net) イメージ

○観測網の構成

1つのサブシステムに18点、計36点の観測ノード（観測装置）を、概ね30km間隔で海底に設置し、ケーブルの長さは沖合システムが約900km、沿岸システムは約740kmとなります。観測ノードの設置水深は最も深いところで約4,560mです。水深1,000m以浅の漁業操業海域では、海底に深さ1m程度の溝を掘り、その中にケーブルと観測装置を設置します。沿岸や浅部ではケーブル保護のため外装ケーブルを使用しています。

各サブシステムの観測データは、海底ケーブルで2つの陸上局に24時間連続して伝送されます。各観測点には、地震計（3成分速度計、3成分加速度計）、津波計（水圧計）で構成されます。地震計は100Hz、津波計（水圧計）は10Hzのデータを取得しています。これらの観測データが防災科研や関係機関へ送信されています。

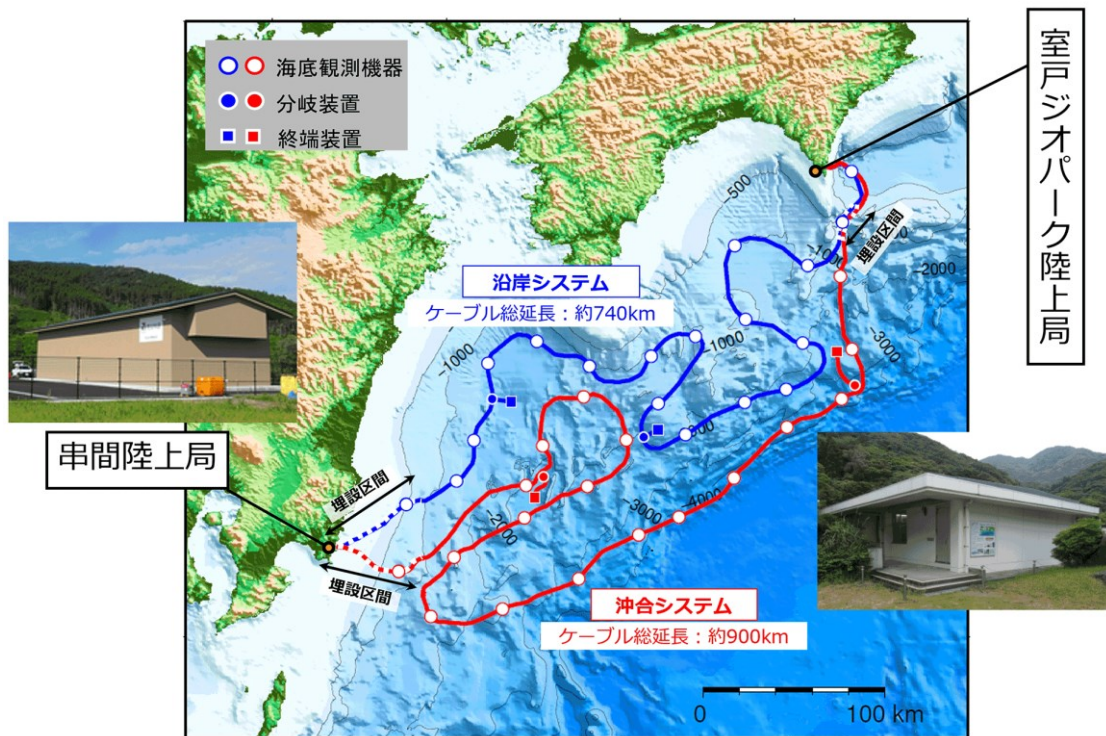


図2 南海トラフ域（西側）に設置されたN-netの概要図

○N-netの観測 データの活用について

気象庁では、敷設が先行して行われたN-net「沖合システム」の観測データについては、令和7年10月の時点で緊急地震速報および津波情報等の発表に活用していました。また、「沿岸システム」の津波観測データについても、令和7年11月から津波情報等へ活用しています。

「沿岸システム」の地震観測データも、データの品質管理などの情報発表へ活用するための準備が終了したことから、緊急地震速報への活用を令和8年3月12日から始めました。これにより、四国沖から日向灘にかけて発生する地震に対して発表する緊急地震速報（警報）が、これまでより最大で6秒程度早まることが期待されます。なお、「沖合システム」を含むN-net全体を活用することで、緊急地震速報（警報）の発表はN-net敷設前に比べて最大20秒程度早まることが期待されています。

あわせて、海域は地下の構造が陸域と大きく異なるため、海底地震観測点を活用している海域の震源推定に用いる地下構造モデルについて、海域に特化したモデルに高度化しています。これによって、緊急地震速報に関連する震源推定の精度向上が期待できます。

また、N-net地震観測データは、津波警報（第1報）等に用いるような、大きな地震発生直後の震源の推定にも新たに活用することになりました。今後は、大きな地震発生直後の震源推定だけでなく、規模が小さな地震を含めた、ルーチン的な震源の決定にもN-net地震観測データを活用していく予定です。

（気象庁ホームページ）：緊急地震速報等に活用する海底地震観測点の追加について ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の活用開始～

https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/06b/20260306_N-net.html

（国立研究開発法人防災科学技術研究所 地震津波火山観測研究センター 海域地震津波観測グループホームページ）：南海トラフ海底地震津波観測網：N-net

<https://www.seafloor.bosai.go.jp/N-net/>